



# 麻布幼稚園だより

令和6年10月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

日中は、まだ暑さを感じる日もありますが、爽やかな空、秋の雲、園庭に咲いたコスモスやセンニチコウなどに、季節が進んでいることを感じます。

先日、5歳児年長組の子供たちは、「ポップコーン(ポップコーン用トウモロコシ)」を収穫しました。1学期に種から育て、夏季休業中は、水遣りボランティアの皆様にお世話になりました。ポップコーンパーティーでは、目の前のホットプレートの上でポップコーンができていく様子に大興奮でした。自分たちが楽しみ味わったのはもちろんですが、年少、年中の友達にも「おすそ分け」として、届けてくれていました。



幼稚園教育要領【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

## (7)自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まると共に、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な土植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

麻布幼稚園の園庭には、サクランボが生る桜の木、梅の実が生る梅の木、柿の木などがあります。また、畑やプランターで、野菜や花を積極的に育てています。子供たちは、発見や驚きをもち、身近な植物と関わっています。そして、収穫を喜び、収穫したものを大切に扱い味わっています。身近な食物がどのようにして育つのかを、直接の体験から学び、それらを大切にしようとする気持ちが体験から育ちます。

「どうやって食べよう。」「何味にしようか。」「小さい組にも分けてあげよう。」と、学級の友達と相談し、自分たちが考えたことを実現できた充実感や満足感は、自分で考え、行動する力につながっていくことでしょう。

「おすそ分け」は、年少、年中組だった時に、年長児のお兄さん、お姉さんからしてもらったうれしさを覚えていたからこそ出てきた発想だったと思います。してもらったうれしさを、今度は自分たちがしてあげるうれしさ。優しい気持ちがつながっていくことも、とても大事で素敵なことだと思います。

まだ残る暑さには気を付けながら、心地よい気候の中、戸外遊びをたっぷり楽しんでいきます。戸外で思い切り体を動かして遊ぶこと、同年齢、異年齢の友達と遊ぶことなど、以前は、さほど意識をしなくてもできた経験が、難しいこととなっている現代です。安全な園庭、たくさんの友達がいるという幼稚園の環境を生かし、これらの経験をしっかりとしていきたいと思います。

「やってみたい」「楽しい」気持ちから、体を思い切り動かす心地よさを味わい、自分から体を動かそうとする意欲、少し難しくても挑戦するしなやかな心と体の育ちにつなげていきたいと思っています。